「川越昭和の街」の地域資源の活用による観光振興に関する研究

実施担当研究員：小瀬　博之（総合情報学部総合情報学科　教授）
尾崎　晴男（総合情報学部総合情報学科　教授）
齋藤　伊久太郎（客員研究員）

1.研究の背景と目的

川越市の中心市街地にある連雀町交差点から仲町交差点に至る中央通りと、立門前通りで構成される「川越昭和の街」（川越名店街、中央通り二丁目商店会、立門前商栄会）は、江戸時代から蓮馨寺の門前町として古くから栄えてきた。明治 26 年（1893 年）の川越大火により、この地区は多くの建物が失われたが、明治 27 年（1895 年）に「鶴川座」の開場（開場当初は川越座）、明治 28 年（1895 年）の川越鉄道（現在の西武新宿線）の開通、明治 43 年（1910 年）の川越織物市場の開場などにより復興が進み、昭和 8 年（1933 年）には本川越駅と蔵造りの町並みが残る「川越一番街商店街」（以下「一番街」）を結ぶ「中央通り」が開通した。その後、この地区が昭和 30 年代まで川越中心市街地として栄えたが、昭和 40 年ごろから市街地の南下が進み、平成に入ってからの一番街の再興と川越駅・本川越駅前の再開発により、この地区が繁栄から取り残された。

道路においては、昭和 11 年（1936 年）にこの通りを含めた「中央通り線」が都市計画道路として決定され、拡幅が計画された。本川越駅から連雀町交差点までは、11m から 20m の拡幅事業が進められているが、一番街は町並み保全のため、現道の幅員に計画が変更された。

「川越昭和の街」では、20m に道路を拡幅する計画が残されている。そこで、「昭和の雰囲気を受け継ぐ賑わいのある町並みづくり」「現道を活かした歩きやすい道づくり」「本物志向の商売が息づく商店街の活性化」をまちづくりの 3 つのコンセプトに掲げた『中央通り 私たちの まちづくり計画の案』[2)]が平成 26 年（2014 年）3 月に発行された同年 4 月には、この計画案を推進する『中央通り「昭和の街」を楽しく賑やかなまちにする会』[3)]が設立され、さらに平成 27 年（2015 年）3 月には、地区街づくり協議会として同団体が川越市により登録[4)]され、現在に至っている。

同地区には、蓮馨寺、熊野神社といった江戸時代から存在している寺社を中心とした歴史的建造物、旧鶴川座、旧川越織物市場などの川越大火以降に作られた産業・文化的建造物、中央通りの開通前後に造られた昭和の趣を残す商店などが建ち並び、これらの地域資源が保全されてきた。

隣接する大正浪漫夢通りは、平成 7 年（1995 年）に鉄骨造のアーケードが撤去され、平成 13 年（2001）年には電線類が地中化され、「川越らしい町屋造りや洋風看板建築が軒を連ねるレトロな町並み、御影石の石畳、電線を地中化した広い空。ほっとするような、ワクワクするような、忘れかけていた不思議な感覚」[5)]というコンセプトを掲げてまちづくりを行ってきた。このような状況の中で、「川越昭和の街」は、その地域資源がまだ十分に生かされていない。

同地区における筆者らの取組としては、2008 年 10 月 12 日に「川越アメニティマップワークショップ」、同年 11 月 9 日にアースデイ・イン・川越における市民調査を行い、これらの研究成果を論文[6)]にまとめた。また、2014 年度から地域活性化研究所事業計画（現在の研究計画）において、「川越昭和の街」の魅力的な地域資源の把握と情報共有を目的とした調査・研究を行っている[7), 8)]。本研究は、前年度の研究成果を基礎として、建造物などの地域資源が来街者にどのように発

見、評価されるか、また、街の魅力をどのように共有するかということについて、2 日間のイベントにおいて 2 つのワークショップを行った。本報では、その結果について報告する。

2. 研究の方法

2.1 写真の収集と比較

過去の「川越昭和の街」及びその周辺地域の町並みを撮影した写真を、同地区の住民や筆者らが撮影したもの及び出版された写真集から収集し、写真に写っているものや写真を提供していただいた方、写真に写っている方の証言から、撮影された年代と場所を特定した。また、これらの写真の定点撮影を行い、地域資源の変化の有無を把握した。

2.2 ワークショップの実施

地区内の蓮馨寺などにおいて開催された 9 月 10 日の「昭和の街の感謝祭」及び 10 月 2 日の「2016 アースデイ・イン・川越 立門前」において、「昭和（・大正）の街ツアー」と「昭和（・大正）の街なつかし写真館」（以下、「ツアー」及び「写真館」）の 2 つのワークショップを実施した。

ツアーでは、「川越昭和の街」及びその周辺地区を説明しながら参加者とともに歩き、魅力的な地域資源をスマートフォンまたは貸し出したタブレット端末で自由に撮影してもらい、その中で特に魅力的な地域資源について撮影した 3 枚の写真を、SNS（Social Networking Service）[注1)] に感想等と一緒にそれぞれイベントの名前である「#昭和の街の感謝祭」「#アースデイ川越」のハッシュタグ[注2)] をつけて投稿してもらった。

写真館では、前節において収集した「川越昭和の街」及び周辺の昔と現在の町並みの写真を 47 対（9 月 10 日は 28 対）掲示し、来場者に対して掲示板に感想等を自由に記入してもらった。

表-1 にワークショップの実施概要を、図-1 にワークショップの様子を示す。

表-1　ワークショップの実施概要

行事名		昭和の街感謝祭2016	2016アースデイ・イン・川越 立門前
開催日		2016年9月10日（土）	2016年10月2日（日）
A 昭和（・大正）の街 ツアー	時間	ルート1 12:30-13:30 ルート2 15:00-16:00	13:00-14:00
	場所	「川越昭和の街」（川越名店街・中央通り二丁目商店会・立門前通り）	「川越昭和の街」と大正浪漫夢通り
	要領	案内しながら全員でルートに沿ってまちあるき、地域資源を自由撮影、特に魅力的と感じた構成要素を各自3枚SNSに投稿	
	ハッシュタグ	#昭和の街の感謝祭	#アースデイ川越
	謝礼	当日会場、一部の商店街店舗で使用できる500円分の商品券	期間内に会場、一部の商店街店舗で使用できる500円分の商品券
	参加者	ルート1：5人（男5人）20代2人, 40代1人, 60代1人, 80代1人；ルート2：13人（男9人, 女4人）20代5人, 30代3人, 40代2人, 50代2人, 60代1人	8人（男6人, 女2人）20代2人, 30代3人, 40代1人, 50代1人, 60代1人
B 昭和（・大正）の街 なつかし写真館	時間	11:00-17:00	10:00-15:00
	場所	蓮馨寺境内	蓮馨寺講堂
	要領	「川越昭和の街」及び周辺の町並みの定点写真を展示、内容を見ながら感想等を記入	
	展示点数	28対	47対
	謝礼	当日会場、一部の商店街店舗で使用できる200円分の商品券	期間内に会場、一部の商店街店舗で使用できる200円分の商品券
	参加者	28人（男15人, 女13人）0代1人, 20代6人, 30代5人, 40代6人, 50代5人, 60代2人, 70代1人, 80代2人	参加者29人（男13人, 女16人）0代2人, 10代9人, 20代3人, 30代4人, 50代2人, 60代6人, 70代3人

図-1　ワークショップの様子

3. 結果・考察

3.1 写真の比較

収集･撮影した 47 枚の定点比較写真のうち､主要なものを年代別に抽出して図-2～図-8 に示す。

各時代と現在の地域資源を比較して変化の有無を考察する。中央通りの開通当時から、建物は改修されながら多くが残っている。また､デザインが変わりながらも街灯が設置され続けており、

電柱と電線も存在している。中央通りは車道が若干拡幅され、歩道が縮小されている。立門前通りは、中央通りにはなくなったしだれ飾りが設置され続けている。一方、当初から商店の存在を示していた袖看板は撤去されているものが多い。アーケードは中央通りの開通当初はなかったが、昭和 30 年（1955 年）ごろに固定のものが設置された。中央通り北側の川越名店街では、平成 26 年（2014 年）に撤去された。街路樹は、中央通り開通当初にイチョウが植えられ、昭和 20 年代には建物の高さに達したが、昭和 40 年代に上部が切られ、その後撤去されたようである。店舗はいくつかの老舗が古くから営業している一方で、入れ替わりも多くあり、渾然一体としている。

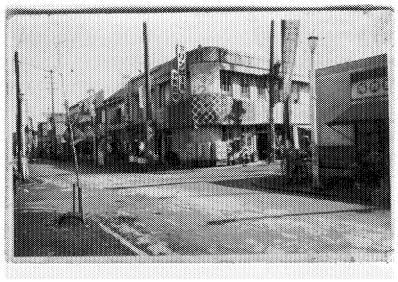

図-2　昭和 10 年ごろの中央通り

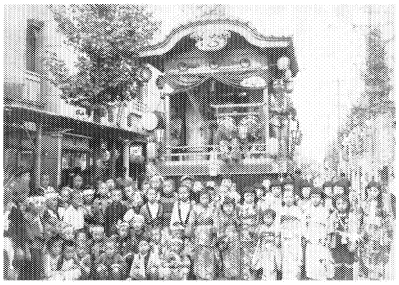

図-3　昭和 25 年ごろの中央通り

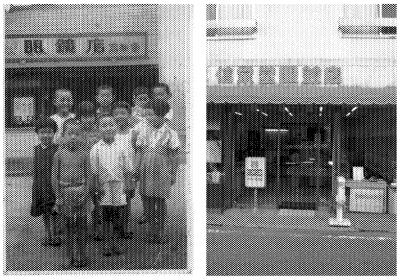

図-4　昭和 20 年代の立門前通り

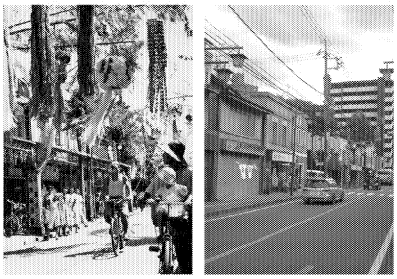

図-5　昭和 30 年の中央通り

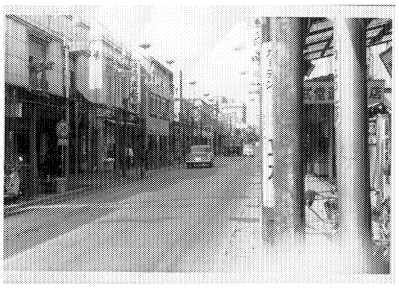

図-6　昭和 40 年代の中央通り

図-7　昭和 50 年代の立門前通り

図-8　平成 12 年の中央通り

3.2 ワークショップの実施結果

ワークショップの 2 つの実施内容「ツアー」と「写真館」ごとに分析を行った。

（1）昭和（・大正）の街ツアー

特に魅力的な地域資源の SNS への投稿は、9 月 10 日が 18 人中 16 人で 44 件、10 月 2 日が 8 人中 8 人で 23 件、計 67 件であった。図-9 に撮影された地域資源の所在地（または撮影地）を示す。

さらに、これらを前年度の研究[8)]における基準と同じ 6 つのカテゴリーに分類した。前年度の結果との比較も含め、構成割合を図-10 に示す。また、SNS に複数投稿された主要な地域資源を、カテゴリーごとに図-11～14 に示す。

投稿された地域資源の場所は、中央通り北側の川越名店街では分散傾向にあり、特に商店街の北東側に少ない。中心的な広場である蓮馨寺は、地域資源が集中している。立門前通りは、大正浪漫夢通りとの交差点から西側に地域資源が多く、東側には少ない。中央通りの南側にある中央通り二丁目商店会は、地域資源が集中している。なお、今回の調査では、大正浪漫夢通りには地域資源が少なかった。全般的に立門前通り西側における要素の多さが顕著である。

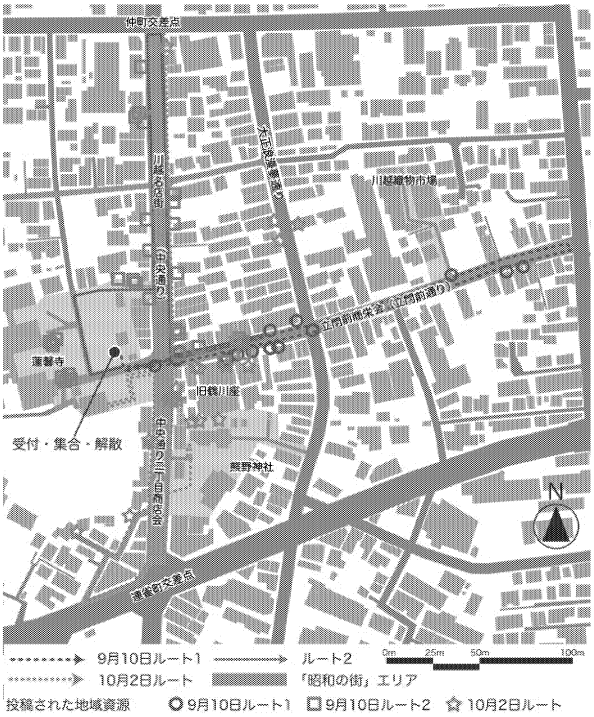

図-9　撮影された地域資源の場所／撮影地点

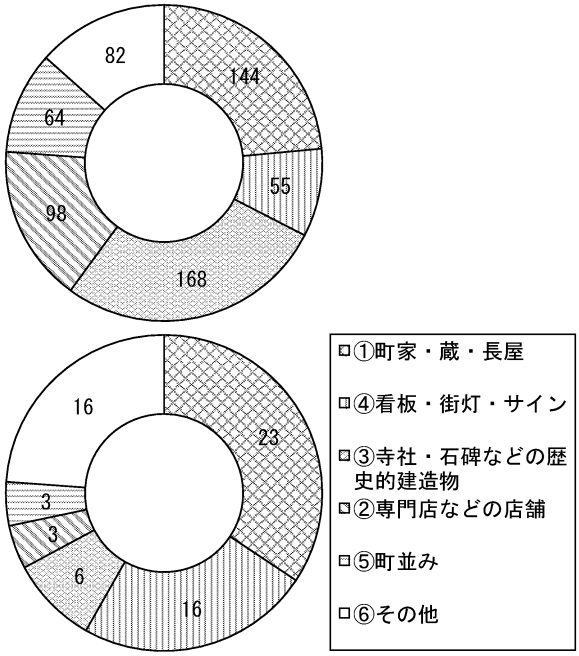

図-10　ツアーで指摘された地域資源の構成割合
（上：2015 年、下：2016 年）

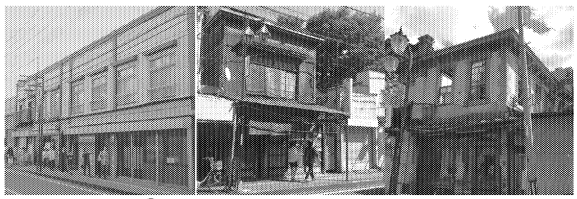

図-11　①町家・蔵・長屋の主要な地域資源

図-12　④看板・街灯・サインの主要な地域資源

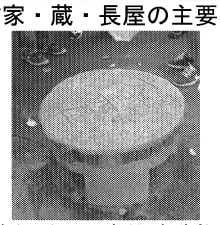

図-13 ③寺社・石碑などの歴史的建造物の主要な地域資源

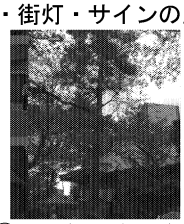

図-14　⑥その他の主要な地域資源

カテゴリー別では、①「町家・蔵・長屋」が 67 件中 23 件と全体の約 3 分の 1 を占めて最も多く、続いて④「看板・街灯・サイン」、③「寺社・石碑などの歴史的建造物」が多い。前年度は、③が最も多く、続いて①、②「専門店などの店舗」が多いという結果であり、前年度の結果と比較すると、今年度は②が少なく、④が多い。前年度と結果が異なる要因としては、今年度は、参加者が撮影した写真の中で特に魅力を感じた 3 枚の写真を選定してもらったが、前年度は、参加者が撮影した全ての写真を集計したためであると考えられる。「川越昭和の街」の店舗を一店舗ず

つ撮影していけば必然的に②が多くなるが、④は店舗よりも数が少ないことや、通りで形が統一されているので、撮影枚数は少なくなるからである。

①は、昭和 8 年ごろから存在している建物、④は、現在は使われていない古い看板やサイン、③は、店舗から寄贈されたと古いベンチ、⑥は樹木が多く取り上げられた。案内する中で、日ごろ見逃されそうな、歴史を重ねて残っている地域資源に魅力を感じている参加者が多い。

（2）昭和（・大正）の街なつかし写真館

写真を見ながら掲示板に感想等を書いてもらった結果（図-15）を分析して、①「景観」、②「思い出」、③「雰囲気」、④「その他」の 4 つのカテゴリーに分析した。これを 30 代以下と 40 代以上の年代別に分けて、回答割合を図-16 に示す。

カテゴリー分けの結果、①「景観」の感想が 57 人中 25 人と約 4 割を占め、次に多かった感想が②「思い出」となった。①「景観」の感想では「昔の袖看板の字のフォントが良い」「昔は旗が多かった」「レレレのレコードの建物（図-2 の右側の黒い建物）の外観は変わっているが構造は変わっていない」といった具体的に書かれた感想もあったが、「景観」「町並み」「風景」といったワードで簡潔にまとめられた感想が 25 人中 15 人と全体の 6 割を占めた。②「思い出」では「川越祭りによく来ていた」「蓮馨寺のピープルランドが懐かしい」といった具体的な感想が多かった。③「雰囲気」では「昭和の方が活気あるように見える」といった感想が見られた。④「その他」にはこのワークショップに対する感想や写真に関連性のない感想を分類した。年代別に分類すると、30 代以下は景観が半数を占めるのに対して、40 代以上は思い出の方が回答が多い。回答内容を見ると、必ずしもこの場所を体験したという思い出だけでなく、昔のなつかしさを感じる街並みや雰囲気を思い出として持つという回答も見られた。

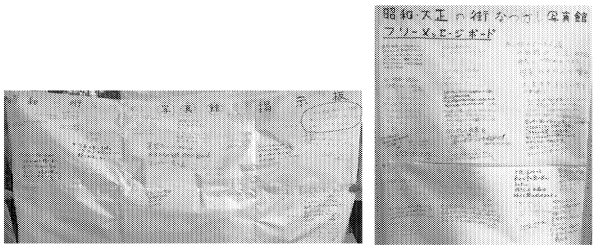

図-15　掲示板（左：9 月 10 日、右：10 月 2 日）

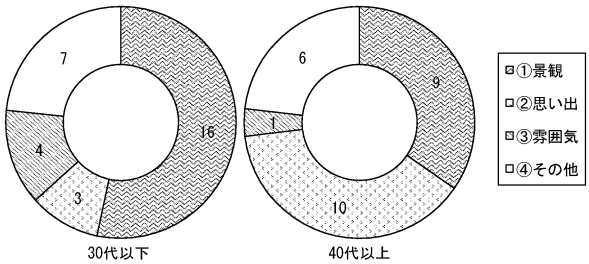

図-16　写真館のコメントの年代別分類

4. 結論

本研究では、埼玉県川越市の「川越昭和の街」において、新旧の定点写真を収集、分析するとともに、これを活用しながら、9 月 10 日と 10 月 2 日の地域でのイベントにおいて、2 つのワークショップを開催し、来街者にとっての「川越昭和の街」の魅力を回答結果から明らかにした。

「川越昭和の街」は、昭和 8 年（1933 年）の中央通りの開通当時からの建物がよく残されており、変わらない町並みと、時代によって付加されて遺された地域資源が魅力を生み出しており、その町並みや雰囲気が残されることを願っている人が多い。昭和 10 年当時の写真（図-2 など）を見ると、80 年以上の昭和初期がとてもモダンな雰囲気であったことがわかる。建物を保存しつつ、当初から店舗の袖看板やデザイン性の高い線の細いサッシの復原などを、これからの町並み整備の方向性の基礎とすることが必要であると考える。また、なつかしさを感じさせる看板やサインなど、各年代で付加されてきた地域資源を併存させていくことも重要であろう。

一方、研究の目的にあった情報の共有と拡散という点については、SNS の効果は限定的であり、課題が残された。筆者らは、並行して「川越昭和の街」ホームページの制作に協力しており、公式サイトなどで地域組織自らが情報発信するプラットフォームを構築することが、SNS による来街者の情報拡散の基本ともなり、重要であると考えられる。

今後は、これまでの研究の知見で得られた内容を基礎資料として、地元住民等がこの街に対してどのような認識をもっているのか、また、その保全に対してどのような考えを持っているのかをアンケートやヒアリングで明らかにするとともに、地元住民等の地域資源に対する意識啓発やまちづくり活動への参加を促進するためのワークショップ、シンポジウムを企画して、地域のまちづくり活動の進捗に配慮・協力しながら研究を推進していきたい。

5. 謝辞

写真や情報の提供、ワークショップ実施に協力いただいた川越中央通り「昭和の街」を楽しく賑やかなまちにする会の各位並びにイベントに参加された方々、また、本研究の分析等において、佐藤加留磨君（総合情報学部 4 年）の多大な協力を得た。この場を借りて謝意を表する。

注

1) 画像共有サービスである Instagram（https://www.instagram.com）を使用した。
2) ハッシュタグ（#）をつけてキーワードを記述することにより写真がカテゴライズされる。

参考文献

1) 川越市立博物館, “川越の映画館の変遷”, 博物館だより, 第 40 号, pp.2-4(2003)
http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/ippan/pdf/40.pdf
2) 中央通り周辺地区活性化検討会, “中央通り 私たちの まちづくり計画の案”(2014.3)
3) 中央通り「昭和の街」を楽しく賑やかなまちにする会設立趣意書(2014.4)
4) 川越市, “地区街づくり協議会登録団体”(2017.2.18 閲覧)
http://www.city.kawagoe.saitama.jp/shisei/toshi_machizukuri/machizukuri/toshikeikaku/toshikeikaku.html
5) 川越大正浪漫夢通り公式ホームページ, “川越大正浪漫夢通りの歴史”(2017.2.18 閲覧)
http://www.koedo.com/history.html
6) 中川邦昭, 小瀬博之, 齋藤伊久太郎, “川越中心市街地におけるアメニティ評価の傾向－アメニティマップ作成手法の確立に関する研究（その１）－”, 土木学会環境システム研究論文発表会講演集, 37, pp.207-213(2009)
7) 小瀬 博之, 尾崎 晴男, 齋藤伊久太郎, “川越市連雀町周辺地域を対象とした地域活性化ワークショップ”, 東洋大学地域活性化研究所報, No.12, pp.25-29(2015.2)
https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=7649&file_id=22&file_no=1
8) 小瀬 博之, 尾崎 晴男, 齋藤伊久太郎, “川越市中央通り『昭和の街』周辺地域における「ときめくまち」ウォークラリー 高齢者の住みよい地域づくりに向けて”, 東洋大学地域活性化研究所報, No.13, pp.7-14(2016.2)
https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=7949&file_id=22&file_no=1